

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育	提出日	令和5年3月27日
------	-----------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>重点目標：学びを創造する力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。</li> <li>ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</li> <li>BYODの成果と課題を検証し、「一人一台端末」を有効に活用した学習環境を実現する。</li> <li>協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。</li> <li>専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>○タブレット端末を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合 (学校全体 学校評価アンケートより H29 56.2%、H30 67.7%、R1 69.7%、R2 69.2%、R3 68.4%)を R4 目標 70%以上 (アンケート等評価基準 B 以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで活用してきた iPad による協同学習に加え、1年生のBYAD 一人一台端末 (Chromebook) 及び全職員 (非常勤講師を含む) へChromebook 配布 (貸与) により授業その他学校活動における ICT 活用が進んだ。1年生の授業では全ての教科で Chromebook が活用されている。</li> <li>Chromecast を全てのHR 教室に設置してChromebook からプロジェクタ投影が可能になり、またアクセスポイントを実習棟や農場に増設することで ICT 活用学習のための環境がよくなった。</li> <li>ICT 活用研修会 (1 回)、ICT 活用公開授業研究会 (1 回) を実施した。</li> <li>共有 iPad、Chromebook の使用頻度はほぼ毎時間 (週 30 時間)、公開授業の実施は 32 回で昨年度より多い。</li> <li>専門教科と普通教科の連携は継続して実施した。</li> </ul> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>○タブレット端末を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 目標値を 60%以上から 70%に高めたが、R4 はR3 より 1.3%増加したものの 69.7%であり、達成できなかった。年々増加しており R3 より目標値を 60%から 70%に高めたが、わずかに達成できなかった。</p> <p>1 人一台端末の 1 年生では 88.3%、情報科 1~3 年は 90.2%であり、日常的によく使用している生徒では高い数値結果である。1,2 年生及び情報科以外の科では共有タブレットを貸し出して使用するため (グループで一台など)使用頻度は低くなり、アンケート結果も概ね 60%台である。</p>

<p>○ICT を活用した交流学习を通して、コミュニケーション能力が向上した生徒の割合 (情報科学科、情報科学科アンケートより H29 88.3%、H30 86.7%、R1 68%、R2 87.6%) R3 76.0%を、R4 目標80%以上 (アンケート等評価基準A 以上)</p> <p>○タブレット端末を活用して授業を実施した教員の割合 (教職員、県活用状況調査より H30 70.8%、R1 68.8%、R3 87.5%) →R4 目標90%以上 (アンケート等評価基準A 以上)</p> <p>○教職員へタブレット端末またはChromebook を貸与した割合 R2 81%→R3 目標100%(アンケート等評価基準A 以上)</p>	<p>○ICT を活用した交流学习を通して、コミュニケーション能力が向上した生徒の割合 R4は 52.6%であり、達成できず。アンケートの対象は ICT を活用して交流学习をしている情報科学科2年情報システムコースの生徒であり、今年度は18名であるため、1人の回答により数値は大きく変わる。交流は本校で実施したが、感染対策をとりながらの交流であり、体調に不安のある生徒は参加しなかった影響も考えられる。</p> <p>○タブレット型端末を活用して授業を実施した教員の割合 R4 年度末調査で100%であり、目標達成</p> <p>○教職員へipad またはChromebook を貸与した割合 R3 年度3月時点で全常勤職員へChromebook を貸与していたが、R4 は会計年度任用職員及び非常勤講師へも貸与し、授業等での活用が進められた。</p>
--	--

### 3 実施事業

#### 【高等学校課事業】

##### (1) 「主体的・対話的で深い学び」(教員スキルアップ事業)

協同学習、ICT 機器を取り入れた研究会を行い、大学等の研究者等から理論、実践面について指導を受ける。公開授業や授業研究会等は自校のみならず、他校の教職員にも案内の上、実施する。

→研究授業は、いずれも Chromebook を活用した授業であった。新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒が教室、先生がリモートという珍しい形態の授業も実施した。先生方の意見交流も Chromebook を活用し、生徒と先生、先生同士でも ICT の活用が進んでいることが感じられた。

#### 【独自事業】

##### (1) ふるさと交流事業

鳥取聾学校、近隣小学校を対象とした ipad 活用支援とプログラミング交流

本校施設、小学校施設およびオンラインでの交流

→特別支援学校との交流については、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年と同様オンラインでの交流となった。生徒は、オンラインにおいても、準備してきた内容を交流相手にしっかりと伝え有意義な交流ができ、自己のコミュニケーション能力の向上につなげている。特別支援学校の先生方からのアンケート結果では、交流内容について、「よかった」「概ねよかった」の回答が100%であった。

小学校とのプログラミング交流では、小学児童に合わせた教え方を本校生徒が実践し、日頃の学習成果を地域・社会に還元することで、本校生徒の自信にもつながっている。

##### (2) 実践による創造力向上事業

鳥取県の魅力発信事業

地元デザイナーに、ノベルティグッズのデザインをテーマに、デザインの方向性、工程作業等の指導を受ける。

→デザイナーからの指導・助言によりデザイン力が向上し、制作過程において生徒同士による相互評価、プレゼンテーション等を実施することで、コミュニケーション能力が身についている。

##### (3) 指導力向上事業

アクティブラーニングの推進 (一部高等学校課事業)

- ・ ICT 活用・協同学習に関する研修会の開催
  - ・ ICT 活用 (ipad 活用・BYOD を含む) 研究のための視察・研修、成果の公開及び環境の整備
  - ・ 各種研修会への参加 (授業改善や生徒指導のヒントや教育についての最新の知見を得るための情報収集・デジタル教材の導入等の取組み検討)
- ICT 活用公開授業研究会はでは、Chromebook を活用した公開授業を行い、また鳥取県教育センター GIGA スクール推進課係長 岩崎 有朋氏に研究協議の指導助言と「STEAM教育」等について講演いただいた。校外からは1名の参加があった。環境整備については、Chromecast を全ての HR 教室に設置、アクセスポイントを実習棟や農場に増設することで環境が充実した。コロナ禍により先進校の視察はできなかった。

#### 4 総合所見 (成果・評価)

以前から行っていた地域や他校との交流事業や、校内での各行事・授業が、コロナ禍により ICT を活用した形へ変化してきており、今年度はさらに進んでいる。Chromebook を非常勤講師を含め全職員へ配付できたことにより、授業への活用の他、生徒の健康観察、クラス等の連絡、アンケート調査、生徒会長選挙など、学校活動の様々な機会が取組みが進んでいる。

様々な形での ICT 活用が可能となる環境整備を推進しつつ、適切な「評価規準・評価基準」のもとで、生徒の力の育成を考え、その目的のためにどのような ICT 活用があるのか検討していきたい。

1年生の1人一台端末(BYAD)と、2、3年生での学習用個人端末の貸し出しによる活用及び個人のスマートフォンの活用で、ICT 活用方針を統一して示すことが難しかった。

※枚数任意